

◆AO入学選考&夏休みスペシャルイベント

サマーオープンキャンパス開催に向けて

企画広報室 小林 昌人

皆さん、こんにちは！暑い夏がやってきました。近年『熱中症』が増加しています。水分補給や体温調節等、正しい知識を身につけて、暑い季節も安全に過ごしましょう。

さて、本学では6/1(水)よりAO入学選考のエントリー受付を開始しています。例年、エントリー者の中には、『先輩に聞いた』『オープンキャンパスで先輩たちが優しく入学したいと思った』等、嬉しい声を耳にします。皆さんが受験した際はいかがでしたか？進路決定に向けて色々悩んだり、エントリーシートや願書提出の時は緊張したり…みんな色々なことを考えながら過ごしていたと思います。高校生の方々もそんなドキドキと共に学校見学に来たり、オープンキャンパスに参加したりしています。在学生の皆さんにもアシスタントをお願いする機会がありますので、本学で会った際には是非、やさしく激励の声をかけてあげてください。

また、夏休みにかけて、《サマーオープンキャンパス》として、スペシャルイベントを開催予定です！企業人や卒業生の方々に来校していただき、仕事の様子等の話をしてもらい、一緒に体験授業をしたりして、将来目指す仕事や職業について、より深く知っていただく機会にしたいと思います。在校生の皆さんにも参加していただき、体験授業のアシスタント等をお願いする予定です。

皆さんの後輩等で、「将来、電子情報/福祉医療の分野を目指したい！」という方がいましたら、是非オープンキャンパスへの1人でも多くの参加を勧めてみてください。一緒に楽しく体験授業に参加しながら、進路を決定していければ良いですね。もちろん在学生の皆さんの参加も大歓迎です！私たちも、将来が希望に溢れている高校生の方々为本学に来てくれるのを、とても楽しみにしています。皆さんの力で、中村学園を更に盛り上げていきましょう！宜しくお願いします！

＜オープンキャンパス開催日程＞

夏休みスペシャルイベント「サマーオープンキャンパス」

・7/30(土)、8/20(土) 13:15～15:45

各業界の卒業生からオモシロ情報ゲット！

将来へのアドバイスからなりたいた自分をみつけよう！！

◎体験入学・学校説明・AO入学選考説明・キャンパス見学

・7/10(日) 9:30～12:00

◎2日体験入学・学校説明・AO入学選考説明・キャンパス見学

・7/20(水)、8/5(金)、8/30(火) 17:00～18:30

※ 保護者対象説明会、なんでも相談会も同時開催 ※

7月の行事

1日(金)CP卒業生を囲む会

2TW・CW第3期実習(～7/30)

2日(土)ビジネス文書検定

3日(日)B検

6日(水)2CP職場体験⑥

7日(木)2MIS面接指導

10日(日)オープンキャンパス 9:30～

13日(水)2CP職場体験⑦

15日(金)MIS初任者研修実習

18日(月)海の日

19日(火)3TW・2MIS[講義・前期試験](～7/22)

20日(水)オープンキャンパス 17:00～

21日(木)3CP面接指導

25日(月)2MIS夏季病院実習(～8/31)

3TW第5期実習(～8/27)

28日(木)J検CBT

30日(土)夏休みスペシャルイベント

サマーオープンキャンパス 13:15～



※ 熱中症の症状別対処法 ※

◎症状1. めまい・立ちくらみ・大量の汗をかく・こむら返り

対処法；涼しい場所へ移動する・安静にする・水分補給

◎症状2. 頭痛・吐き気・体がだるい・体に力が入らない

集中力や判断力の低下

対処法；涼しい場所へ移動する・体を冷やす・安静にする

十分な水分と塩分をとる

☞ 口から飲めない場合や、症状の改善が見られない

場合は医療機関への受診を！

◎症状3. 意識障害(呼びかけに対して反応や会話がおかしい)

けいれん、運動障害(普段通りに歩けない など)

対処法；涼しい場所へ移動する・安静にする

体が熱い場合は保冷剤などで冷やす

☞ 救急車(119)を要請！！



◆ライバルがさらに多様化。

「社会人として成果を出すとの気概」を面接で

進路室長 橋野 幸男

まず、最近の調査発表・記事から3つを紹介します。毎年変化する就活・採用動向ですが、この3つをつなげて、就活の「今」を理解してほしいと思います。

1. 「静岡県における『新卒者採用の実態調査』及び『就職活動時の実態調査』集計結果報告」:

『しずおか産学就職連絡会』6月21日発表、『静岡新聞』6月22日掲載

《平成28年3月卒業者の採用活動について》

- ・採用計画人数を充足できなかったとする企業割合が、調査開始(23年)以来最高の55.9%(前年同期比+15.5%ポイント)。
- ・計画人数未充足の要因は、「応募者数が少なかった」が最大の52.6%。次いで、「応募レベルに達する者が少なかった」34.2%、「想定以上に内定辞退者が多かった」23.7%、「応募がなかった」も21.9%。
- ・未充足分の補充については、「社会人の中途採用で補った」が43.5%でトップだが、「補わなかった」が2位で39.1%。

《29年3月卒業予定者の採用活動について》

- ・採用予定数は、「今年並み」が46.9%、「今年より増やす」が33.5%。
- ・採用環境は、「採用しにくくなりそう」が55.2%。一方、「採用しやすくなりそう」は5.0%。
- ・選考スケジュールは早くなっているところが多く、5・6月に内定出しの第1ピークを迎えるようだ。

2. 「内定まだ…意外に多い『就活第2グループ』の苦悩」:

日経電子版「お悩み解決! 就活探偵団2017」6月9日掲載

「マラソンでも同じように、ボリュームが大きいのが『第2グループ』。この第2グループの就活生に対して、企業側の採用事情の影響が表面化しつつある」として、2つの背景を挙げています。

《① 数より質で厳選採用》

- ・確かに景気回復もあり、この5年間で年間の新卒就職者数は2割増えた。その一方で、「厳選採用」の傾向は強まっている。採用計画数の達成のために何が何でも学生の数を確保するのではなく、優秀な学生を採用できれば選考を打ち切るやり方だ。
- ・(建設業界、電機メーカーや、IT企業の例を紹介。)

《② 多様性を求める企業》

- ・日本企業がこぞって唱える「ダイバーシティー(人材の多様性)」が、さらに門を狭める。… これまでも、多様性を求める企業の採用方針の結果、外国人留学生などの採用が増えてきた。加えて中途採用市場

が盛り上がりつつあり、現役就活生にとっては手ごわいライバルがさらに増えることになる。

- 採用コンサルタントの谷出正直氏は、「近年は採用難もあり、第二新卒や中途も新卒と同様に、入社後の成長を重視して選考する傾向が出ている」と指摘。新卒と既卒が同じ土俵に乗っている可能性を示唆する。
- その中で、企業にとって第二新卒や中途採用は入社時期を柔軟に調整しやすいほか、「社会人のマナーを身に付けていたり、働くことについて『今回は失敗しない』との覚悟や意欲があったりということ、一定程度期待できる」。
- では、新卒入社を目指す学生は第二新卒や中途採用にどう立ち向かえばいいのか。その差を埋めるためには、「雇用されることの責任を自覚し、社会人としてしっかり成果を出すとの気概を面接で訴えることが必要だ」と助言する。

3. 「第二新卒に熱い視線。売手市場、転職OK」:

『日本経済新聞』6月21日掲載

- 今年の新卒・中途採用は空前の売手市場。第二新卒に間口を広げ、優秀な人材を獲得しようとしている。
- 企業が第二新卒に注目するのは、新卒採用スケジュールの混乱で学生と企業のニーズにミスマッチが広がったことも背景にある。経団連の採用選考指針の改定を受け、2016年春卒業から新卒の採用活動期間が短くなった。学生にとっても業界研究や自己分析が不十分なまま就職先を決める例が目立ち、「就職3年未満の早期転職者が増えている」(三菱電機)という。
- 人材紹介のエン・ジャパンによると、5月の「第二新卒」とうたった求人件数は2,000件を超えた。前年同月比で41%増え、求人全体の伸び率(29%増)を上回った。

いかがですか。「売手市場」・「採用難」でも、企業は「安易に採用基準を緩和しない」一。この点は、「後援会総会」でもリクルートワークス研究所の調査結果などで説明しました。今年度に向けた採用担当者向けセミナーで「第二新卒」に関するものが増加していることは、これまで「進路部会」でも言及しました。また、静岡市内所在のIT企業から来校した採用担当者が中国出身の方だったという例もあり、「多様な性々」も身近な話です。先に引用した「社会人のマナー」、「雇用されることの責任を自覚」、そして「社会人としてしっかり成果を出すとの気概」は、専門学校学生の皆さんこそが、日々、涵養しているものです。「慌ただしさ」を感じさせる今年の就活ですが、日頃の研鑽に自信を持って志望先にチャレンジしてください。

◆平成28年度 静岡福祉医療専門学校(CP以外)  
「卒業生を囲む会」報告

【参加卒業生】

氏名	病院・施設名	職種
渡邊 裕章さん (19年 TW 卒)	社会福祉法人 白翁会 障害者支援施設 光陽荘	生活相談員 相談支援専門員
寺田 理絵さん (19年 CW 卒)	医療法人社団 秀慈会 白萩病院	介護職(病院)
正治 綾子さん (19年 CW 卒)	聖隷三方原病院 あおぞら療育センター	介護職 (医療型障がい児)
八木 和真さん (25年 TW 卒)	社会福祉法人 静和会 特別養護老人ホーム 丸子の里	介護職(特養)
竹嶋わかかなさん (24年 MS 卒)	医療法人社団 榮和会 えいもと内科・消化器科クリニック	医療事務

●就職活動の経過について、いつごろ活動して、なぜその施設や病院を選んだのか。

- 竹嶋さん> 2年生の7月頃学校に求人がきて、担任の先生より話をいただいた。卒業生も働いていること、家からも近いこともあり志望した。医療事務の業務で得意なことは?など聞かれた。
- 八木さん> 4月下旬には就職試験を受け、5月には内定をいただいた。第四期介護実習で現在勤務している施設に行き、その実習の終わりに勧誘を受けた。知っている先輩などもおり、他にも多く先輩方が勤務していたこともあり、ここで働いてみたいという思いが生まれたため、そのままお願いすることになった。
- 正治さん> 学生の頃から、障がい者の施設に就職したく、想いは強かった。実習に行き、そのまま就職をしたかったが、空きがなくその施設への就職は諦めるしかなかった。しかし、障がい者の方と関わりを持ちたい、という想いは消えることなく、障がい者支援施設で4年程働いた。それから、震災でのボランティアを体験し、これで良いのか等、色々考えた上で、今の聖隷三方原の施設に転職をした。
- 寺田さん> 2年次の2回の実習を『萩の里』で行い、そこでアルバイトに誘われ、実習にも行った。アルバイトを通して自分自身を売り込み、就職につながった。卒業後は老健へ就職したが、そこでの経験が現在の転職先である療養型病院へのキャリアアップにつながった。
- 渡邊さん> 実習がきっかけになった。第3期実習と第5期実習で計7週間お世話になっていた。第3期実習が終わる頃には、現在の施設で働きたいという意思を固めておりその意思も伝えていた。第5期

実習で、完全にその気持ちを確認させた。私は東部(出身)なので、実家を離れて西部地区に就職すること自体、かなり勇気が必要であったし、就職当初は失敗の連続だった。それでもこの場所で働きたいと思い、今でも選んでよかったという気持ちは変わらない。

●今の仕事に魅力を感じていることや大変なこと。

- 渡邊さん> 現在は支援員(相談員)をしているが、最初は介護職員をしていた。考えてみると、介護職員の方が魅力があったように思う。特に、利用者様からの直接の反応という意味では、介護職員は直接的に伝わるためそれが嬉しかった。相談員の視点はまた異なっていて、家族等を中心とする側面的支援が主となってくる。それはもちろん大切なものですが、何度も心が折れる経験をしている。それでも、この相談員という仕事をやってよかったと思っている。利用者の「人生を支えている」という実感もあり、福祉はチームワークが大切で、周囲のすべての人と協力しながらやっていくということは、大きな価値があると思う。(チームケア)
- 寺田さん> 利用者様や患者様の中には、認知力が低下し、暴言暴力のある人と接すると落ち込み大変さを感じるが、それ以上に利用者様、患者様から「ありがとう」という言葉を聞くと嬉しく、やりがいを感じる。
- 正治さん> 重度で重い障害を患った子供から大人まで、色々な方が入所している。医師・看護師・介護士等、24時間体制で体調・呼吸のチェック、眠れているか等、チームケアで支えている。看護師と介護士という他職種が、利用者一人一人の「生活に寄り添い」、より良いものになるように、いっしょに関わって相談しながら、個別ケアを目指していけることに、大きな魅力を感じる。「物が見えているのか」「何を感じているのか」「これが一番良い方法なのか、悪いのか」等、悩むことは多々あるが、少しでも心が通じ合えたと感じられた時は、嫌なことも忘れ、やりがいを感じる。
- 八木さん> 特別養護老人ホームなので終のすみかになる。利用者様一人ひとりの人生の最後の部分に関わる人が多いので、できるだけ彼らの声を聴き、拾い上げることで実現できるように努力している。その要望や希望に応えることができたときのお礼の言葉が何よりの励みになる。
- 竹嶋さん> 頻繁に来られる患者様に顔を覚えてもらい、声を掛けていただけるのがうれしい。患者さんの治療経過等が分かるようになったり、医療や薬についての知識が得られることにも魅力を感じる。